

あ
か
牛



農林水産省熊本種畜牧場阿蘇支場における間接検定風景

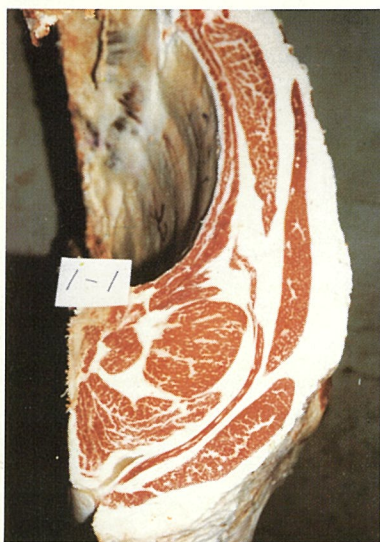
第
44
号

1980.1

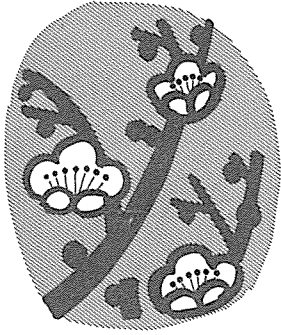
社 団 法 人 日 本 あ か 牛 登 録 協 会

「球泉」号産子群の枝肉断面

(本文27ページ参照)



あ か 牛



No. 44

1980・1

目次

年頭の辞……会 長堀 力……2	
蒔いた種子は実った……常務理事 河津 幸喜……4	
繁殖経営の課題	
子牛生産費の節減とその方策	
……九州大学農学部 甲斐 諭……8	
あか牛の改良と球磨地域に	
おけるグループ活動について	
……熊本県 球磨畜協 樫木 淳一……14	
私の経営とあか牛の	
将来の展望	
……熊本県 御船町 上田真由美……16	
会報	
支部だより	
子牛市況	
……18	
……24	
……28	

年頭の辞

会長 堀 力

謹んで年頭の御祝詞を申し上げます。

昨年来、一九八〇年代の我が国農業について種々論議されてきましたが、その見通しについては近日中に農林水産省から発表される「昭和六十五年農産物の需要と生産の長期見通し」に詳細に説明がある予定で、それにより一応の目標が立てられるものと考えております。いずれにしても、ご承知のように最近の日本農業は、米、ミカンの過剰をはじめとし、鶏卵、鶏肉、豚肉、そして牛乳と畜産物に生産過剰傾向が見られ、この先畜産にとっても厳しい年が続くものと覚悟しなければなりません。ただ牛肉については国内生産で需要を満たすことができないので

毎年十二〜三万トン輸入が継続される見通しとなっています。そして輸入牛肉は、主としてオーストラリア、米国等の国々から入ってきてますが、これらの国々の牛肉生産状況にも豊凶があり、必ずしも、量、価格についていつまでも安定した輸入ができるとは考えられません。一方、国産牛肉の六〇%余を占める乳牛からの肉も、今後牛乳の生産調整をやっつかねばならない現況からみて、これまたいつまでも安定供給を期待することがむづかしいと思われまふ。このような牛肉生産についての内外情勢から考えると、わが国の肉専用種である褐毛和種、黒毛和種、日本短角種、そして無角和種も今後国産牛肉を安定的に供給する担い手として頑張って行かねばならないと考えます。

また米の生産調整に伴う水田転換面積も年々大きくなり、今年は五十数万ヘクタールを予定されていますし、昭和六〇年代は八〇万ヘクタールと見込ま

れ、できるだけ転換田に飼料作物を栽培して肉牛増産をするような計画がなされています。皆さんが日夜熱心に飼育されているわれわれの褐毛和種（あか牛）こそ飼料特に草の利用性の高い牛として定評があり、おいしい牛肉を安く生産してくれる牛なのです。当協会では、このようなあか牛の特性を十分備えた素牛を沢山生産できるように血統登録事業を進め努力しています。優れた親牛からは良い子が生れます。そして親の両親つまり祖父母が優れたものであればあるほど、その孫に優れたものが期待できるわけです。このような事実に基づいて、歴代の血統を明確にするための血統登録が行われているわけですが、今後は血統と能力（連産性、発育速度、肉量、肉質等）との関係を、主要な系統について調査し、あか牛が我が国肉牛品種として大きく発展するための土台作りをする計画です。黒牛、短角種も我が国の気候風土に適した立派な肉牛で、今後大いに発

展して欲しいと思います。

当協会は、あか牛が他の品種にない経済特性をうんと生かして八〇年代の牛肉生産の一翼を担う肉牛として発展するよう皆さんと一緒に頑張って参りたいと思います。

新しい年を迎えるに当り、会員の皆さんの御協力をお願いすると共に、ますますの御繁栄をお祈り申し上げます。

蒔いた種子は実った

常務理事 河津 幸喜

はじめに

わが国の畜産界も肉用牛の時代がやってきて朝光を見る感があり、減少傾向から牛価の好況により近年その頭数の横ばいから若干ながら漸増に転じ希望も持たれるようになった。飼養構造の変革はあるにしても飼養規模の拡大、経営の改善等により農家の意欲、更に諸施策の展開もあって増殖への期待を大きくしているところである。

さて「あか牛」も農業構造の変化に伴い、さらに価格の変動、その他の諸要因により激減の一途を辿り今日に至ったが、国、道県の積極的なご努力により、改良と増殖への積極的方策が進められている。原産地とも言われる熊本県は勿論であるが、北海道での肉牛生産基地事業は、昭和五十五年から実施される十勝、池田町での「あか牛」導入事業の縁故は池田町と熊本県阿蘇畜協との「馬」と「あか牛」からできたもので、このことは熊本の地元新聞では詳しく紹介されたことであり、ここでは紹介を省かせていただく

ことにする。

自然の背景と強大な基盤のもとに畜産王国を築いてきた北海道が肉牛増殖計画を樹立され、「あか牛」もまたその過程でゼロから今日の二千頭にまで繁殖された道の行政、団体、農家が一体となりその実績を挙げられたことに深い敬意と感謝を申し上げます。今後「あか牛」がますます定着発展を遂げることを祈念するものであるが、実現の将来何時の日かその動機と奇縁を問われることがある時、関係者の一人として「標題」のとおり記しておくべきであろうと思つたからである。

あか牛の流通と販路拡張事業

爾来、熊本県の「あか牛」は明治、大正にかけ在来の「あか系和牛」に主としてシンメンタール種の交配を行ない改良固定され役用能力を認められてきたものである。

昭和初年までは「あか牛」と「黒毛和牛」とは混合飼育されていたが、登録事業の実施により天草地方を除き「あか牛」の飼育が全県的となった。「あか牛」は関東を中心として漸くその聲価が認められ、終戦を境として韓国牛の輸入が杜絶し、馬を主体とした東北地方は役肉牛への切替えをはじめ、熊本からの「あか牛」導入を積極化するに至り、宮城、秋田、山形、福島、又北陸の新潟、富山にも

及んだ。こうして「あか牛」が全国的なものになるにつれ「あか牛」地帯の要望も興って昭和二十七年四月七日、社團法人日本褐毛和牛登録協会が設立され、全国主要県に十四支部を設置し、関係各県の援助を受けつつ、改良、登録事業に販路拡張と並行し施策がなされた。

「あか牛」の北海道への第一歩は昭和三十六年、根室の中標津へ球磨から商系により二十頭が導入されその成績も良好であったが、ホルスタイン種雄牛との交雑により純粋種は自然減少とときく。

昭和三十七年はわが国の和牛は空前の増頭になり「あか牛」も生産増加による流通促進と価格安定化のため、熊本県下畜産団体の世論により、北海道への計画的進出が目論まれ積極的な推進方が県に要望されるに至った。県は東京事務所を通じ北海道開発庁と連絡をとりながら昭和三十八年度当初予算で編成した。

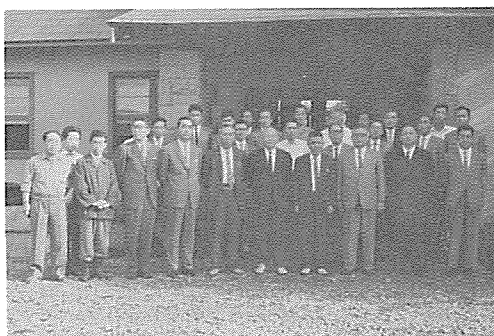
たまたま北海道開発庁、氏家技官の仲介もあり、阿蘇郡小国町と北海道猿仏村と「あか牛」の売買、貸付について契約を締結、現畜発送の直前、猿仏村の山林大火発生（導入予定地）被災農家の事情により中断された。

十六頭の「あか牛」寄贈

熊本県及び熊本県畜連はこの寄贈事業にあたり熊本県知

事（寺本広作）名をもって北海道知事（町村金吾）あて「褐毛和牛飼養試験委託事業実施について」との公文で「我が国主畜農業経営の師表としての貴道の畜産は時代の要請に副ってその真価を発揮されつつあり、最近肉用牛の造成に諸施策を傾注されているやに聞き及び、本県特産の「あか牛」は多年の改良を加えたもので肉用牛として、優れた性能を具備し、貴道の肉用牛造成に恰好のものと確信するので、飼育試験のうえ適応性をご調査いただいたうえで広く道内肉牛地帯へ契めていただきたい」旨、依頼の申し入れを行った。折返し、北海道庁から好意的なそして現地への事前調査方について連絡があり、七月三日打ち合わせと調査のため、県からは当時の小山総務部長、小松係長（財政課）、寺本係長（畜産課家畜改良係長）、県畜連から西岡総務課長四名が訪道した。北海道への移出は季節的に夏期を最適とするとの寺本係長からの電報により、県畜連傘下の各畜協と打合わせを行い贈呈牛選定となった。経費は関係畜協と県畜連、県費助成、である。

七月二十三日、上熊本駅へ、種雄牛一頭、種めす牛十五頭が集結、測定、貨車積、出発にあたって、杉本農林部長は「熊本県畜産史上の画期的一大壮挙であろう」と使節あか牛の前途を祝し、北海道での「あか牛」発展の万才を一同三唱した。護送には畜連の吉広技師、森技師の二人があ



上 寄贈牛の積込（上熊本駅）

下 贈呈式後の記念写真（新得畜産試験場）

北海道庁は町村知事が東北、北海道知事会議のため、斉藤副知事はじめ首脳部、いろいろと援助をいただいていた。嵯峨畜振興係長平尾庶務係長又森田修（試験場長）ほか場員各位多数参席の上滞りなく終了した。西岡事（北海道は代理）贈、受の挨拶、森田場長の技術者としての「あか牛」に対する高い評価と試験設計等についての熱情溢るる「感謝のことば」に心暖る思いと、「あか牛」が北海道で「実」を結ぶであろうとの確信を深めることができた。

たり、七月二十九日善なく、人畜共に十勝の道立新得畜産試験場に到着した。

寄贈式は昭和三十八年八月五日、同試験場で行うことになり、熊本県側から、寺本県知事、河津寅雄（故、県畜連会長）、古閑一夫（畜連副会長、鹿本畜協長）、岩本人志（球磨畜協長） 松本（知事秘書課長）及び事前打合わせのために先発した桑原（あか牛登録協会本部事務局長）、吉広、森、それに当時和牛担当の筆者であった。

にも暑かったが、事業の一段落と安心感で、場内に設営された祝宴では道関係の方々との懇親を深めることができた。九月には帯広で開催の全道共進会に寺本係長、岩栄指導課長（県畜連）がPRのため訪問。

道で「あか牛」の導入事業に着手

明けて、昭和三十九年四月八日から十日まで渡島支庁農務課から星野、広川両技師が視察に来県、五月には熊本県

農政委員の訪道、その後、渡島支庁管内の鹿部村が道有牛の導入を決定、七月初旬、佐藤技師、柳主事（道庁）購買のため来県、一〇〇頭購買、道開拓連の輸送担当で七月二十一日豊肥線大津駅より発送、鹿部駅着の二十七日には、高野課長（熊本県畜産課）宮本係長（阿蘇事務所）、畠畜連から工藤技師、吉村技師が展示会に出席、その後は鹿部村の連年、大野村、蘭越町、松前町等の導入事業により「あか牛」の道南定着が始る。このような過程の中で道及び肉用牛協会の松野専務、小谷、高津の道庁出身、管井技師等の方々のご努力により「あか牛登録協会支部設置」が実現、研究会、講習会等が大野、松前で開催され、池田町をも含め登録事業も逐次軌道に乗る。又民間では、昭和四十六年、米国へ畜産視察を筆者と共にした大沼牧場の武井社長が「あか牛」の導入を開始、同場長は農林省阿蘇支場で「あか牛」を試験研究された阿部場長で理解が深い。心強い限りである。

おわりに

十八年前に津軽海峡を渡った一握りの「あか牛」は千の単位に増加した。これまでの道程は必ずしも順風萬帆ではなかったが実に関係者各位のご努力の賜である。まさしく「蒔いた種子」は花を咲かせ実を結んだと言いたい。あか

牛の特性は経済性、経営的、国民嗜好から見ても「出番が来た」という感じ、しかし、まだまだ改良の余地は無限のものとして努力を続けなければならない。一日も早く農家の付託と庶民への期待に応じねばならない。

（文中敬称略）

繁殖経営の課題

子牛生産費の節減とその方策

九州大学農学部農業計算学教室 甲斐 諭

一、はじめに

子牛価格が異常に高い現在、子牛生産費を節減しようとする努力は無意味だと思われるかもしれない。しかし、生産費を安くすればそれだけ利潤が増加するし、今後予想される子牛価格の下落時にも対応できるので、農家の側からみても生産費の節減はぜひ必要な努力目標の一つである。

一方、社会的にみても子牛生産費の節減は必要なのである。なぜなら、消費者からの「外国産牛肉と比較して、国産牛肉は高すぎる」と言う批判が強くと、牛肉問題は一つの社会問題になっているからである。当面の牛肉問題の課題は牛肉が高い理由を国民に平明に解説するとともに牛肉を少しでも安くするよう努力することであると思われる。

国産牛肉が高い一つの理由は、肥育素牛を供給する子牛生産経営が零細で、その生産費が高いからである。子牛生産費の最大費目は飼料費（一九七七年、全国平均で四七・

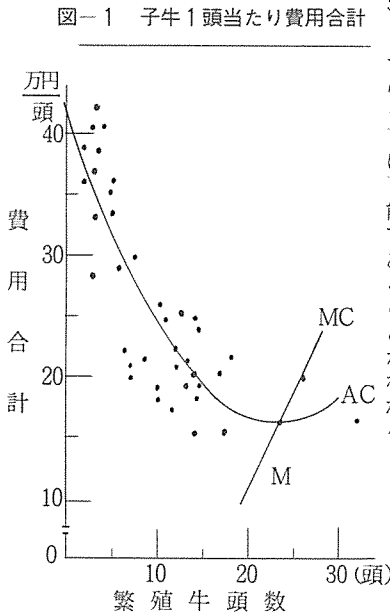
一％）と労働費（同、二九・二％）であり、両者で七六・三％に達している。子牛生産費を節減するには、この両費目の節減を図ることが肝心である。特に、①粗飼料生産基盤の拡充によって飼料費の五六％を占める自給飼料費を節減することと、②頭数規模拡大による省力化によって飼養管理労働費を節減することが重要なのである。この両費目の節減にこそ安く国産牛肉を生産する可能性が秘められていると言っても過言ではない。

今日でも一―二頭飼いの子牛生産経営が六〇％程度存在し、子牛生産の大半を担っている現実を決して軽視はできない。しかし、牛の飼養を放棄するのは、一―二頭飼いの農家に多いのも事実である。一―二頭飼いの農家に子牛生産の多くを、今後とも依存するのは望ましくないとと思われる。減少の一途にある子牛生産経営を、現在の零細規模から脱却させ、飼料費と労働費を中心に費用の節減を図り、より安定した高能率の経営形態に発展させていくことが、牛肉を少しでも安く増産する際の基本問題であるという視点のもとに小稿は書かれている。そして、この基本問題の解決には粗飼料生産基盤としての土地面積（草地を含む）の拡大が必須の前提条件であるという認識に基づいて小稿は書かれている。

二 繁殖牛飼養頭数規模と子牛生産費の関係

一 頭数規模の拡大と生産費の低下

図一は黒牛について収集した三八個のサンプル（一九七七年）を、子牛一頭当たり費用合計の軸と一戸当たり繁殖牛頭数の軸のグラフにプロットしたものである。ACは子牛一頭当たり平均費用曲線、MCは限界費用曲線、Mは最低点をそれぞれ示している。ACの子牛一頭当たり平均費用曲線が低下しているので、現状の一戸当たり五頭程度の繁殖牛頭数規模（以下、頭数規模という）を拡大すれば確実に子牛生産費を低下させることができ、一〇頭まで拡大すれば生産費は現状の六〇%（約二九千円／三七三千円）まで引き下げ可能であることがわかる。



二 頭数規模と各費目との関係

子牛生産費のうち、どの費目が頭数規模の拡大とともに低下するであろうか。購入飼料費、自給飼料費、労働費、診療衛生費、水道光熱費、種付料、成牛償却費、建物施設償却費、機械器具償却費、修繕費、雑費について分析した結果を見ると頭数規模の拡大とともに費用が有意に低下するもの、反対に有意に上昇するもの、無関係なものに三分類されることがわかる。①低下する費目は図二の労働費、図三の自給飼料費、診療衛生費、建物施設償却費である。②反対に増大する費目は水道光熱費、種付料、機械器具償却費、修繕費。③無関係な費目は購入飼料費、成牛償却費、雑費である。

特に著しく低下した費目は、労働費と自給飼料費であった。図二、図三からわかるように、労働費の最高値と最低値のレンジすなわち労働費の最大節減幅は約一三万円（一五―二）、自給飼料費のそれは一〇万円（一二―二）であり、両費目の最大節減幅を合計すると二十三万円にも達する。図一の費用合計において最高値と最低値のレンジすなわち最大節減幅は約二五万円（四〇―一五）程度であったが、労働費と自給飼料費の節減によって費用合計の最大節減幅の九二%（二三／二五）が説明されたことになる。子牛生産費の節減にとって、労働費と自給飼料費の

図-3 子牛1頭当たり自給飼料費

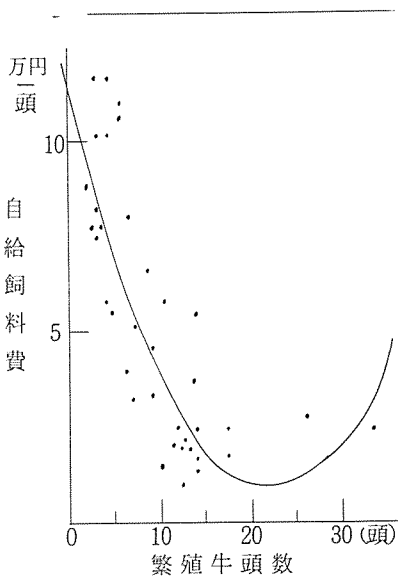
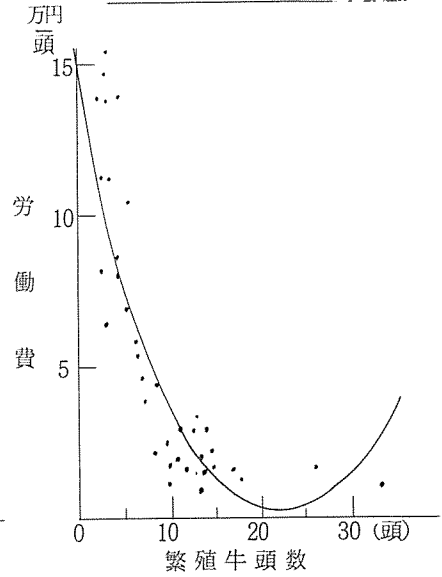


図-2 子牛1頭当たり労働費



節減は非常に重要であることが立証された。

三 畑面積の拡大と生産費の低下

子牛生産費の節減はどのような手順と因果関係によって達成されるか分析しよう。

黒牛を飼養する畑作地帯で収集した資料が中心であるので、粗飼料生産基盤の拡充の可能性を示す指標として畑面積を重要な生産費節減の戦略変数として導入する。というのも畑面積を拡大すれば、有意に費用合計が低下するからである。

なぜ畑面積の拡大とともに費用合計が低下するのであるうか。畑面積を拡大すると通常夫婦二人で営まれている家族経営では労働が逼迫し、農業機械の導入が必要になってくるものと推察される。農業機械の導入の程度を機械器具償却費の指標で把握すると、機械器具償却費と畑面積との関係には強い正の相関がある。農業機械が多く導入されると結果的に労働費が図四のように大きく節減されるのは当然であろう。一方、農業機械が多く導入されると自給飼料費も図五のように節減される。これは農業機械が多く導入されると物的な自給飼料量が減少するという関係に基づく訳では決してなく、農業機械の導入に伴い自給飼料の費用に占める家族労働費が大幅に節減されることに基づいている。いま試みに、農林水産省「畜産物生産費調査報告」

図-5 自給飼料費と機械器具償却費の関係

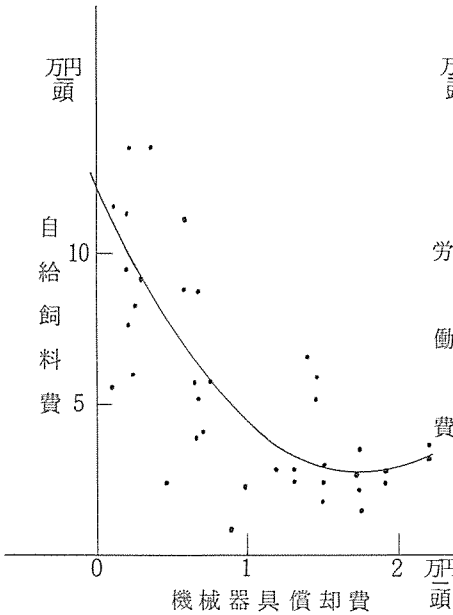
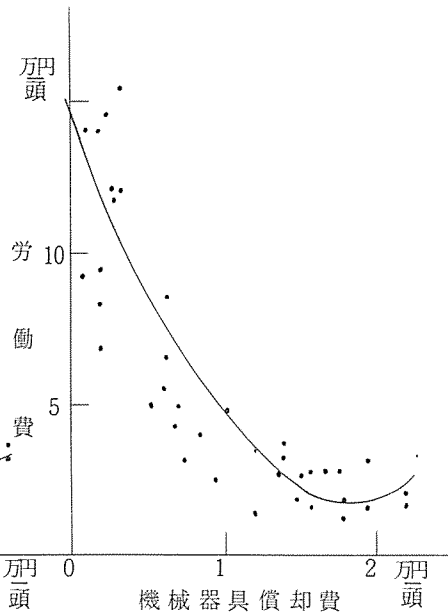


図-4 労働費と機械器具償却費の関係



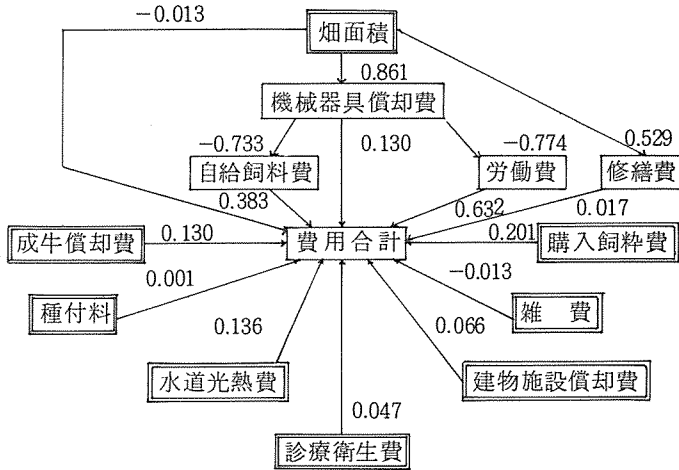
(一九七七年、全国平均) によって自給飼料の費用価に占める家族労働費の割合をみてみよう。生牧草のえん麦は六一・四％、イタリアンライグラス六一％、デントコーン五六・九％、ソルゴー六二・六％、乾草のいね科ませまき四九・六％、イタリアンライグラス六〇・四％である。機械化によって、この部分が容易に節約されるのである。要するに、畑面積を拡大すれば労働が逼迫し、農業機械を多く導入する。それによって、飼養管理労働並びに自給飼料費の大半を占める労働費が大幅に節減されるものと推察される。

以上の分析では、縦軸と横軸の二次元平面上にサンプルをプロットし、数多くの作図によって生産費節減の手順と因果関係が考察された。次に、一括して分析する手法を用いて考察しよう。

三 生産費節減メカニズムのパス分析

子牛生産費節減のメカニズムをパス分析法を用いて解析し、その結果をパスダイアグラムとして提示したのが図六である。数値は変数間の因果関係を示す標準化回帰係数である。畑面積など二重枠で囲んだ変数は外生変数、自給飼料など一重枠で囲んだ変数は内生変数として取扱われている。直線の矢印は変数間の因果関係の方向を指している。

図-6 子牛生産費節減のパスダイアグラム



注、 は外生変数、 は内生変数を示す。

図六を用いて、費用合計以外の全説明変数がどのようなメカニズムのもとに目的変数である費用合計に関係しているのか検討しよう。

畑面積の費用合計に対する寄与率をみよう。畑面積の費用合計に対する直接効果はマイナス〇・〇一三である。負値となっているので、畑面積の拡大は費用合計の節減に寄与することがわかる。しかし、その絶対値は非常に小さいので、直接効果はほとんどないといえよう。間接効果は四つの連鎖の複合パス係数の合計として把握される。すなわち、①機械器具償却費と自給飼料費を経由しての効果、②機械器具償却費を経由しての効果、③機械器具償却費と労働費を経由しての効果、④機械器具償却費と修繕費を経由しての効果である。それぞれの値の合計はマイナス〇・五四三であり、間接効果の合計値はマイナス〇・五四三である。畑面積の拡大による間接的な生産費節減効果は直接効果より大きいといえる。直接効果と間接効果とを合計した全効果はマイナス〇・五五六となっている。結局、畑面積拡大による生産費節減効果はマイナス〇・五五六であり、他の外生変数の効果と比較して大きいと結論できよう。また、雑費以外の他の外生変数は逆に費用合計を高める効果しかないことも判明した。

四 繁殖経営の展開方向

以上より畑面積を拡大すれば機械器具償却費は増加するが、機械器具を駆使して機械器具償却費の増加以上に労働費、自給飼料費を減少させ、子牛生産費を節減させるメカニズムが分析されたと思われる。しかし、畑に代表される粗飼料生産基盤の購入は高地価、兼業農家の資産的土地保有化傾向により、南九州においてさえ非常に困難である。従って、土地集積の方法は賃貸借しかないであろう。事実本分析に用いた繁殖牛七頭以上の規模の大きい経営の二六戸の半分の一三戸が借地している。これらの経営は借地により粗飼料生産基盤を確保し、多頭化と生産費の引き下げに成功しているといえよう。

農用地利用増進事業を活用し、地域の遊休化している農地の利用権の設定を促進するなど農用地の賃貸借による流動化を期待したい。また共同で草地開発しながらその後メーバーの中に兼業化のため肉用牛飼養を放棄するものがあり、部分的に草のあまっている草地もあるので、このような草地を積極的に利用する賃放牧の推進も望まれている。

①既耕地に依存した舎飼い方式においては既耕地の賃貸借、②草地に依存した夏山冬里方式においては草地への賃放牧などによって、粗飼料生産基盤を拡充し、一―二頭飼いかから脱却して、生産費を節減することが、所得の拡大と

経営の安定化につながる繁殖経営の今後の展開方向と思われる。

五 むすび

小稿の議論は紙面の都合上、数式を割愛して展開されたが、詳しくは拙稿「粗飼料生産基盤の拡充と肉用子牛生産経営の展開方向」において検討されている。また、分析の素材は畑作地帯の黒牛であるが、あか牛についても同様な展開方向が望ましいと信じている。現在進めているあか牛の経済性の調査で、熊本県内を歩きながら、上記の感を深くしている。

あか牛の改良と球磨地域における グループ活動について

熊本県球磨畜産
農協技師

榎木 淳一

球磨地域にかぎらず県下各地に畜産グループが結成され活動されていると思いますが、ここでは球磨郡でのグループ活動とあか牛の改良について紹介させていただきます。このグループ活動が始って五年が経ちますが、昭和四十九年に球磨畜産農業協同組合の事業として制度化され、現在までに約六十のグループが指定を受け活発な活動がなされてきました。当初の状況を振りかえてみますと、優秀な活動実績を上げた十一の肉用牛グループと四つの種豚グループの指定をしたのが始りです。当組合がどうして畜産グループの活動補助事業を実施したかは、従来、地域ごとの座談会という中で飼養管理の技術指導一つにしても、なかなか広範囲に及ぶために畜産農家の方々と人的にも時間的にも十分なる指導や交換ができなかったという反省があったからです。そのためにグループ活動の中で、中核畜産農家の育成、飼養管理技術の向上、畜産経営の合理化という

指導と同時に畜産農家の方々との相互の親睦、融和を計っていくのがその趣旨だったわけです。球磨地域においてもあか牛を取り巻く環境、諸条件など地域により違ってきます。山間部と平担部では、土地基盤の大小、專業あるいは兼業農家戸数の割合も違います。そのような中で地域に適合した畜産経営の基盤づくりを確立する必要があります。そこにはいろいろな特色を持ったグループが生れ、あるグループは兼業農家で国鉄勤務のリーダーを中心として、それぞれ異った職業を持ちながら優秀なあか牛を飼養されており、また他のグループは土地基盤の有利さを十分利用し多頭化を目ざし、除々に全頭一級登録牛だけにする目標を掲げ、あか牛の改良と増殖に取り組んでいます。なおまたあるグループは婦人を中心としたグループといったようにそれぞれの地域に合った特色を十分生かして活動がなされています。

次にその活動内容についてみますと、改良、飼養管理、衛生管理、粗飼料の生産技術、種雄牛に関する知識等あか牛に関する広範な情報についての勉強会を月一回程度、年計画に沿って実施し、年度末にはグループ内での子牛販売統計と登録における合格率の成績、あるいは、あか牛の経営等についての反省なり、目標を決め活動しています。その中でユニークなグループは、他のグループと交換会

をし、研究会を開催し、四〜五頭の牛を引き出して体型や今後の改良点と種雄牛の交配法などについて研究し、育成牛の選抜の基準を勉強し、あか牛の将来の方向について熱心に論議をし、グループの中でのあか牛の改良増殖を実施しています。特に昭和四十九年頃までは登録について余り関心が払われず、一級登録と二級登録牛から生産された子牛についての経済性の差異が少く、同様視する価値観が一般的でしたが、現在においては全く違った意識があります。最近は特にセリ市名簿に祖父母の登録を記載したため、子牛を購入する際、必ず祖父母の登録についても十分考慮されています。やはり登録という原点を明確に理解され、育成牛についても、一級登録でも高い得点を付点されることに関心と注意を払っています。

私ども組合としても畜産グループの情熱というものが感じられます。またグループ内でも相互の親睦を計りながら切磋琢磨し、自らの経営の向上のため努力されている姿勢が見られ、球磨のあか牛を次元の高いものに造りあげ、県畜産祭り（共進会）においても立派な成績をおさめることができました。「一人の力よりも二人、二人よりも三人」というように、あか牛にとって大きな拠り所となるのではないのでしょうか。また球磨ではグループ活動を大切にするため、昨年から畜産グループのソフトボール大会を実施し

てグループの親睦を計っています。昨年は三十七チーム、今年は四十七チームの参加をみて盛大に開かれました。昨年は上村肉用牛同志会、今年には市町村畜産主任者会が優勝しました。

このようなグループ活動を通じ、あか牛の将来について一つの目標意識を抱き、それぞれの農業経営の安定向上を目指していくことに非常に意義深いものがあります。またグループとあか牛が互いに感化して、すばらしい明日のグループとあか牛ができあがるものと確信いたします。

私の経営と

あか牛の将来の展望

熊本県上益城郡御船町

上田真由美

現在私の家には肥育牛十一頭、繁殖牛四頭、子牛二頭のあか牛がいます。私がまだ小学生の頃は、繁殖牛が数頭というくらいで、今みたいに経営を支える一つの柱というほどではなかったわけです。それが昭和四十七年の稲作転換により肉用牛へと移ったわけです。畜舎を建て機械を入れ草地を拡張しました。この頃は高値でずいぶん頭数も増え、一番多かったときは四十頭を超えるほどでした。しかしそれも長くは続かず、四十九年中頃からだんだん安くなり、私の家でも少しづつ頭数を減らし始めました。私の家だけではなく一緒に始めた人達も同じように頭数を減らしました。一方、肉用牛へと切り換えた時に肉用牛生産団地が設立されていたのです。それによって大型機械の導入や草地の拡大、設備の充実など、施設面においてとても充実したものになっていきました。しかし頭数は減らし施設は増えていく、それに濃厚飼料は高くなる一方というのでは経営は行きづまってしまう。そうならば牛を少しでも高く

売らなければならぬので、当然消費者は安い輸入品へと流れていってしまいます。それではますます生産者は困ってしまふわけです。

私は小さい頃から牛と共に育ってきたせいいかとも牛が好きです。高校時代も畜産の学科がなかったので畜産クラブに入り地域のあか牛を飼っておられる農家を回って勉強しました。この時は牛の審査の勉強が中心でしたが、その家の人達のお話しを聞いたり、また畜産試験場やセリ市、共進会などにも積極的に足を運びました。農家を回った中にも多頭飼育農家もあればほんの一、二頭飼いの農家もありました。そこで感じたことは、頭数を多く飼っているからといって良い経営だとは言えず、頭数が少なければそれなりに内容の充実したものにすることにより、決して小規模経営も見捨てたものではないということでした。母牛の体型を見て種牛を選び、そして適度な運動、えさの給与法など根本をたどることが大切ではないかと思えます。

外国からの輸入品におされている状態の中で、それに打ち勝っていくためには、農家一戸、一戸の努力が必要とされると思います。輸入された高い濃厚飼料にだけ頼っている輸入品には勝てないと思います。

この数カ月間、両親と一緒に仕事をしてみて、もっと勉強して改善しなければならぬところがあると思いました。

父は、「現在の肥育牛経営では、素牛が高く、飼料代も高いのでとても経営に合わない。それよりも、繁殖牛で自給飼料八〇%、購入飼料二〇%くらいでもっていったほうがいい。」とよく言っています。私たちはまだ難しいことはよくわかりませんが、これからの目標として、質を良くするということを考えていきたいと思っています。そして自給飼料でまかない、安くて良い肉を生産し、輸入品に負けないものにして行きたいと思っています。関係各機関の方々のご指導をよろしくお願いいたします。



会報

○ 改良増殖専門委員会、中央審査委員会 産肉能力検定制委員会合同協議会

第一回の改良増殖専門委員会、中央審査委員会、産肉能力検定制委員会の合同協議会を十一月一、二日の両日にわたって熊本県畜産試験場および熊本厚生年金会館において開催した。

今回は西日本ブロックの協議会であったが、ほとんどの委員が出席され、来賓として農林水産省畜産局より新山肉用牛係長が臨席された。協議事項は左記の通りであった。

- (一) 審査標準および改良目標の検討
- (二) 審査細則の検討
- (三) 産肉能力検定制法の検討
- (四) 登録協会の事業推進状況と来年度事業計画
- (五) 各種委員会の今後の進め方
- (六) 増殖対策

○ 東日本ブロック研究会

昭和五十四年度東日本ブロック研究会は、宮城県支部の

当番により十一月二十八、二十九日の両日にわたって同県黒川郡大郷町および宮城県松島町において開催した。

今回の研究会には、地元宮城県支部より佐藤鉄山支部長をはじめ、北海道、秋田、福島、群馬の各県関係者ならびに本部より堀会長、山部、河津両常務理事らが出席した。

研究会第一日目は大郷町の県経済連黒川家畜市場において研究牛五頭について審査眼の統一と新しい発育曲線を適用した発育状態の見方について実牛研究会を行った。そのあと畜産開発公社大郷牧場の現地視察を行って初日を終了した。

二日目は、会場を松島町「大観荘」に移して、室内協議会を開催。本部事務局からの事務報告につづいて、今後のあか牛の改良方向、増殖対策、本部への要望事項等について活発な討議を行い、次回の開催を北海道に決定して閉会した。

(高等登録、雄牛)

高等登録番号	名 号	得点	血 統		所 有 者
			父	母	
高 60	松 房	855	重 房 (1級 398)	ふくみ (1級 20320)	熊本県 球磨種雄牛 球磨郡上村 集中管理事業所

(高等登録、雌牛)

高等登録番号	名 号	得点	血 統		所 有 者
			父	母	
高1004	さかえ	845	光 優 (高 22)	しらゆり (1級 928)	熊本県 菊池郡旭志村 芥川テル子
高1005	まさこ	806	幸 龍 (1級 31)	ひろえ (1級 6575)	菊池郡菊陽町 西本才記
高1006	さなえ	809	菊 丸 (本 585)	たまはる (予熊 30098)	上益城郡清和村 荒木辰喜
高1007	きくみ	814	菊 浜 (1級 327)	しげみ (2級熊 8493)	上益城郡矢部町 木村信治
高1008	みぞら	808	福 陽 (本 791)	たまえ (予熊 19780)	阿蘇郡高森町 田上幸人
高1009	みつひめ	810	第三栄 (高 37)	みつまる (2級熊11048)	阿蘇郡高森町 住吉次男
高1010	まるふく	823	楠 風 (1級108)	ふくまさ (1級 17254)	阿蘇郡高森町 荒牧善晴
高1011	すずらん	820	福 花 (高 31)	かねとる (高 178)	阿蘇郡高森町 荒牧善晴
高1012	とよのり	807	球 栄 (高 24)	しげなみ (予熊 22670)	阿蘇郡高森町 末永留三
高1013	みつふじ	800	草 丸 (本 1004)	あやめ (本 2107)	阿蘇郡高森町 首藤けさえ
高1014	とみはま	802	福 花 (高 31)	とみはま (予熊 43635)	阿蘇郡高森町 白石明年
高1015	しげとし	837	重 河 (本 999)	ゆうとし (予熊 19878)	阿蘇郡高森町 野尻俊幸
高1016	ふくなか	824	重 月 (1級299)	そよかぜ (1級 16918)	阿蘇郡高森町 甲斐一起
高1017	みつはな	836	福 花 (高 31)	みつこ (本 8327)	阿蘇郡高森町 白石年男
高1018	えいみつ	808	蘇 栄 (1級122)	よしとき (予熊 34253)	阿蘇郡蘇陽町 嶋田定務
高1019	たかね	839	蘇 丸 (本 1000)	あやめ (1級 16836)	阿蘇郡蘇陽町 山辺 修
高1020	りゅうえい	817	第二竜明 (高 49)	第三まるえい (1級 7601)	阿蘇郡蘇陽町 興福高喜
高1021	ふくみ	802	蘇 丸 (本 1000)	たかふく (1級 154)	阿蘇郡白水村 荒牧孝憲
高1022	みつひさ	841	草 桜 (本 1005)	はるなみ (1級 3061)	阿蘇郡白水村 中川辰次
高1023	くさひめ	830	草 桜 (本 1005)	はつひめ (予熊 45036)	阿蘇郡白水村 渡辺常光
高1024	うらたま	809	重 玉 (高 11)	たまうら (2級熊 9865)	阿蘇郡白水村 梅田孝滋
高1025	いちなり	812	重 河 (本 999)	まなり (1級 3161)	阿蘇郡白水村 渡辺常男

高等登録 番号	名 号	得点	血 統		所 有 者
			父	母	
高1026	たかえ	80.2	光 優 (高 22)	みつたか (1級 13958)	熊本県 鹿本郡植木町 三城幸福
高1027	ふくまる	81.9	菊 栄 (高 41)	みずは (1級 13107)	" 鹿本郡植木町 田尻吉親
高1028	さくら	80.3	久 月 (1級 298)	く み (2級熊 17009)	" 阿蘇郡阿蘇町 中村秋憲
高1029	みつはな	81.8	重 玉 (高 11)	よしはな (1級 4421)	" 阿蘇郡阿蘇町 本田小一
高1030	たつはな	84.3	竜 明 (高 39)	とみはな (高 705)	" 阿蘇郡阿蘇町 坂口静義
高1031	しげなみ	81.6	重 玉 (高 11)	なみえい (1級 1784)	" 阿蘇郡阿蘇町 三井友幸
高1032	第二さつき	89.9	竜 明 (高 39)	みやさかえ (高 485)	" 阿蘇郡阿蘇町 園田福美
高1033	こうなん	80.5	蘇 南 (高 34)	こうえい (本 7824)	" 阿蘇郡阿蘇町 古閑秋義
高1034	はなえ	84.1	二 福 (本 1050)	けさはま (1級 15843)	" 阿蘇郡阿蘇町 橋本義範
高1035	たまえい	84.0	重 玉 (高 11)	第二さかえ (1級 1778)	" 阿蘇郡阿蘇町 浅久野一徳
高1036	第二きくえい	83.0	第二戦旗 (高 43)	みつこ (1級 10878)	" 菊池市片角 稲田千秋
高1037	そのみ	80.4	重 玉 (高 11)	ふくみ (本 6268)	" 上益城郡清和村 工藤とめ子
高1038	みつはな	81.3	菊 玉 (高 23)	はるひめ (本 6010)	" 上益城郡清和村 甲斐貞熊
高1039	のりひめ	81.9	第二重川 (高 53)	まるひめ (2級大 290)	" 鹿本郡植木町 野田 力
高1040	つるうめ	84.9	重 梅 (1級 301)	つる (1級 17943)	" 山鹿市上吉田 吉里正士
高1041	は る	80.0	重 月 (1級 299)	はまゆう (1級 6168)	" 山鹿市桜町 池田義晴
高1042	ふえる	82.8	草 南 (1級 220)	たから (1級 16016)	" 下益城郡砥用町 木村一二三
高1043	はつひめ	80.1	竜 浦 (高 19)	み ね (2級熊 19128)	" 人吉市西大塚 田山 豊
高1044	あきかぜ	82.0	球 栄 (高 24)	まさる六 (予熊 39752)	" 人吉市温泉町 坂口清利
高1045	さくら	80.9	重 吉 (高 25)	ふ じ (1級 20116)	" 人吉市古仏頂町 松本 真
高1046	よしひめ	82.1	昭 浜 (1級 14)	よ し 一 (高 236)	" 人吉市下戸越町 春園兼義
高1047	さかえ	80.3	松 浜 (本 893)	ふくひめ (高 514)	" 球磨郡免田町 中村健義
高1048	たまみつ	80.2	球 栄 (1級 125)	はつこ (予熊 47678)	" 球磨郡免田町 宮川 士
高1049	ふくひろ	80.4	重 吉 (高 25)	ひろえ (高 782)	" 球磨郡上村 平川 忠
高1050	いちご	81.9	竜 浦 (高 19)	み ち (1級 11978)	" 球磨郡上村 塚本正己
高1051	さかえ	81.0	第3栄 (1級 268)	はつひめ (1級 13710)	" 球磨郡上村 山森俊雄
高1052	よしひめ	84.7	蘇 月 (高 35)	みつめ (高 188)	" 球磨郡多良木町 脇崎輝男
高1053	あ き	81.0	市 房 (1級 126)	み どり (1級 9852)	" 球磨郡多良木町 湖田健一
高1054	第二はつひめ	88.7	重 房 (1級 398)	はつひめ (高 664)	" 球磨郡多良木町 小笹五男
高1055	とみひめ	83.7	光 力 (高 27)	ふくひめ (1級 21249)	" 球磨郡多良木町 西 丈一

高等登録番号	名号	得点	血統		所有者
			父	母	
高1056	みつふく	835	球光 (高 26)	はる (本 8680)	熊本県 球磨郡多良木町 西丈一
高1057	はつえい	839	水威 (高 12)	まさこ (高 216)	球磨郡多良木町 田中今次
高1058	こうじょう	845	蘇月 (高 35)	はる (2級熊 20421)	球磨郡多良木町 赤池千尋
高1059	みねこ	826	菊玉 (高 23)	みね (2級熊 19584)	球磨郡多良木町 椎葉彦市
高1060	ふたみ	810	浜華 (高 17)	さかえ (2級熊 7643)	球磨郡多良木町 野田久幸
高1061	ふくひめ	814	蘇月 (高 35)	はつみ (高 781)	球磨郡多良木町 赤尾広司
高1062	みつひめ	823	球光 (高 26)	はるひめ (1級 16610)	球磨郡湯前町 栗秋洋一
高1063	第六あやめ	803	光力 (高 27)	さとみ (1級 1970)	球磨郡湯前町 吉田八郎
高1064	ふくみ	808	永丸 (1級 237)	みつこ (1級 11283)	球磨郡須恵村 恒松鶴男
高1065	はる	816	光力 (高 27)	さつき (2級熊 27885)	球磨郡須恵村 浜田武保
高1066	ともひめ	836	永丸 (1級 237)	第二ともえ (高 513)	球磨郡須恵村 浜田武保
高1067	みゆき	815	竜浦 (高 19)	とみえ (2級熊 5851)	球磨郡深田村 荒川一
高1068	さつき	824	草桜 (本 1005)	はつ (2級熊 9210)	球磨郡相良村 先田寛
高1069	ほくや	845	重月 (1級 299)	まるえ (1級 10695)	球磨郡相良村 高田清臣
高1070	ふくひめ	803	草桜 (本 1005)	ひめ (1級 13454)	球磨郡山江村 出口正信
高1071	ふくひめ	809	草桜 (本 1005)	第一ふくはな (1級 15830)	球磨郡山江村 勝山幸人
高1072	もみじ	816	金時 (高 32)	のりこ (本 8832)	菊池市原 赤星辰也
高1073	たまよ	803	幸福 (本 786)	第三たま (本 9100)	菊池市上木庭 松原全之
高1074	ふくえい	850	竜栄 (高 20)	第三ふくまる (本 9029)	鹿本郡菊鹿町 立野正敏
高1075	しげはる	843	重河 (本 999)	はるまる (1級 12267)	菊池郡大津町 上田誠
高1076	はつこ	803	園盛 (高 33)	はつひさ (1級 6564)	菊池郡菊陽町 松永実
高1077	第三いずみ	809	園盛 (高 33)	たかはま (本 5758)	菊池郡大津町 古庄房年
高1078	あきひ	813	重宝 (高 40)	またさかえ (1級 16343)	阿蘇郡阿蘇町 中島友秋
高1079	しげふく	835	重用 (1級 191)	たまふく (1級 18321)	阿蘇郡阿蘇町 村田昭浩
高1080	あきくさ	826	重用 (1級 191)	まる (1級 4433)	阿蘇郡阿蘇町 村岡敏
高1081	なみさかえ	848	中堀 (高 38)	第三いけずる (1級 13134)	阿蘇郡一の宮町 蔵原勝哉
高1082	いわさかえ	846	重玉 (高 11)	たにみつ (1級 13114)	阿蘇郡阿蘇町 島津信義
高1083	ゆうせい	844	蘇中 (高 10)	たまみ (1級 8707)	阿蘇郡阿蘇町 江藤勝喜
高1084	まさ	848	栄光 (1級 116)	なみふく (1級 6824)	阿蘇郡産山村 大塚幾
高1085	さつき	837	重用 (1級 191)	あせいち (1級 17316)	阿蘇郡阿蘇町 江藤義宗

高等登録 番 号	名 号	得 点	血 統		所 有 者
			父	母	
高1086	ふくまる	80.2	菊 玉 (高 23)	ふくみつ (2級熊16109)	熊本県 上益城郡矢部町 小園静春
高1087	み え	81.6	重 吉 (高 25)	ひでまる (1級 3834)	上益城郡矢部町 木村誠志
高1088	な み	80.8	栄 (1級 210)	か ず こ (1級 8452)	宮城県 黒川郡大郷町 石川清人
高1089	えいしげ	85.6	重 旗 (1級 209)	とうえい (1級 14659)	山鹿市上吉田 川上尊治
高1090	第五きくえい	81.6	福 山 (1級 32)	き く え (高 220)	菊池郡大津町 樋口勝己
高1091	そ ぎ く	81.4	蘇 南 (1級 68)	き く え (1級 2405)	菊池郡大津町 田中正義
高1092	しげよし	81.0	重 玉 (高 11)	よ し こ (高 427)	菊池郡大津町 今村 博
高1093	つ る み	80.7	草 南 (1級 220)	つ る そ (1級 10629)	阿蘇郡高森町 後藤富人
高1094	は ま	81.8	蘇 栄 (1級 111)	お は ま (1級 12337)	阿蘇郡蘇陽町 山辺始寿
高1095	第四よしえい	84.3	第二竜明 (高 49)	つぎえい (1級 7647)	阿蘇郡長陽村 山口 深
高1096	ふくのり	80.0	福 花 (高 31)	たまのり (2級熊16355)	阿蘇郡高森町 宇藤千幸
高1097	は つ 子	81.0	蘇 栄 (1級 122)	第二さかえ (2級大 267)	阿蘇郡久木野村 浅尾清雄
高1098	ふくはな	81.8	蘇 栄 (1級 111)	あさふく (1級 7710)	阿蘇郡高森町 野尻 武
高1099	う ら ら	80.3	第二竜明 (高 49)	こ た ま (1級 17259)	阿蘇郡高森町 児玉福男
高1100	つるたま	80.3	福 花 (高 31)	つ る (本 6398)	阿蘇郡久木野村 今村不二雄
高1101	み の り	81.0	草 桜 (本 1005)	は つ (1級 4868)	球磨郡錦町 半田 盡
高1102	かねこ	82.6	草 桜 (本 1005)	む つ め (1級 16606)	球磨郡球磨村 橋本鶴雄
高1103	ひ め	81.3	草 桜 (本 1005)	は つ ふ じ (予熊 46523)	球磨郡上村 菅越弘記
高1104	ふ た め	84.2	永 丸 (1級 237)	ふくひめ (1級 15200)	球磨郡上村 才藤英士
高1105	ゆ き	82.6	重 吉 (高 25)	第一ふゆる (1級 14079)	球磨郡上村 新堀秋男
高1106	あ ず ま	81.5	第三豊旗 (1級 206)	さ か え (2級熊16939)	球磨郡岡原村 吉永園義
高1107	あ き	80.6	浜 栄 (本 895)	ふ じ (本 2099)	球磨郡多良木町 舟森芳隆
高1108	や よ い	83.2	永 丸 (1級 237)	ひ め (1級 11143)	球磨郡多良木町 吉田集作
高1109	はつひめ	81.8	光 力 (高 27)	たかひめ (1級 460)	球磨郡水上村 石山 勝
高1110	ふ じ	80.3	市 房 (1級 126)	ふじひめ (高 413)	球磨郡須恵村 溝口親男
高1111	さ つ み	80.1	菊 玉 (高 23)	か や の (1級 2879)	球磨郡須恵村 田原哲男
高1112	つ る み	82.6	正 豊 (1級 278)	ふじはな (1級 18571)	球磨郡須恵村 恒松鶴男
高1113	第二はな	83.0	球 光 (高 26)	は な (1級 8586)	球磨郡深田村 中村 一
高1114	ふくひめ	80.9	重 吉 (高 25)	ゆきひめ (1級 23840)	球磨郡相良村 山口徳雄
高1115	あさぎり	80.5	草 桜 (本 1005)	あさぎく (1級 430)	球磨郡相良村 瀬音 隆

高等登録番号	名 号	得点	血 統		所 有 者
			父	母	
高1116	第二あさこ	82.2	幸 庵 (1級 31)	お さ こ (1級 4102)	熊本県 玉名市秋丸 宮本哲男
高1117	さ く ら	83.2	第 三 栄 (高 37)	は な (1級 6949)	阿蘇郡阿蘇町 藤田琢磨
高1118	し ず か	80.4	光 力 (高 27)	ひ め ゆ り (1級 17529)	阿蘇郡阿蘇町 島野義武
高1119	しげみや	80.8	重 玉 (高 11)	第12さつき (高 211)	宮下元美
高1120	す ず み	81.8	菊 雄 (1級 245)	やえすす (2級熊17576)	坂田政行
高1121	は な こ	82.7	蘇 中 (高 10)	さよひめ (本 6985)	辻 勝茂
高1122	みやさかえ	81.4	第 三 栄 (高 37)	み や (2級熊23588)	中野友常
高1123	きくさかえ	80.9	菊 雄 (1級 245)	や よ い (1級 18296)	田口亨一
高1124	ふくさかえ	80.9	重 川 (1級 191)	の さ か え (高 344)	中川幸男
高1125	第三はつはる	83.6	重 玉 (高 11)	は つ は る (高 375)	鹿山村 小野 豊
高1126	はるひめ	82.5	重 玉 (高 11)	ま る き く (高 184)	井 二義
高1127	きくらひめ	81.6	重 玉 (高 11)	さ く ら (予熊 30699)	波野村 高日国人
高1128	ま る	82.1	重 玉 (高 11)	さ か え (予熊 25127)	後藤 溜
高1129	ふ み こ	81.3	大 優 (1級 26)	は つ こ (予熊 34114)	菊池市茂藤里 藤本信男
高1130	さちひめ	80.4	球 光 (高 26)	あ さ ひ (高 28)	球磨郡上村 尾方十一
高1131	ふくとみ	81.6	福 月 (1級 305)	は る と み (1級 11432)	阿蘇郡小国町 梅木 実
高1132	う め	80.0	重 丸 (1級 318)	そ き く (1級 21819)	菊池郡大津町 王永 潔
高1133	ま ゆ み	80.6	白 岩 (高 52)	う め (1級 17990)	上益城郡矢部町 三浦兼司
高1134	は つ み	80.9	菊 玉 (高 23)	ふ じ み (1級 7997)	宮田 孝
高1135	ふくまる	80.7	第 二 竜 明 (高 49)	す い れ ん (1級 14601)	甲斐年明
高1136	ち よ	81.2	蘇 月 (高 35)	う め (1級 22923)	菅 義則
高1137	はまゆり	80.2	藤 藤 (高 17)	え い こ う (予熊 42916)	玉名郡菊水町 石原範之

支部だより

○熊本県支部

「モウ一頭あか牛を」増頭運動

昨年からの子牛価格の高騰にもかかわらず繁殖牛飼養頭数は、前年並である。また水田利用再編対策も水田面積の三分の一に及ぶ転作をせねばならず転換作目として畜産特に肉用牛がクローズアップされて来た。当支部としては、農家経営安定のために無家畜農家解消、増頭運動の一環として「モウ一頭あか牛を」のパンフレットを県下の農家に配布し増頭を呼びかけている。

熊本県畜産祭り開催

第二回熊本県畜産祭り（熊本県畜産振興会主催）が十月九日より十三日まで、阿蘇畜産農協および熊本県畜産流通センターを会場として、家畜の改良増殖、畜産経営の安定自給飼料の増産を推進するとともに、畜産に対しての意欲の向上を図り、熊本県の畜産振興に資する目的で開催された。

あか牛関係は次のとおりである。

肉用種牛の部（第一会場・阿蘇畜産農協）には未経産五四頭、経産六頭、母牛系統群三組九頭の計六九頭が出品された。熊本県下各郡のトップクラスの出品とあって、あか牛の特色である、発育、体のつり合いがよく、特に体幅、体深が増し、体積に富み、優劣の差が小さく齊一化され、前回よりも数段の改良の跡がみられた。その結果球磨郡球磨村舟戸大八氏出品の「かづみ号」（特級申請中）がグラウンドチャンピオンになった。

肉牛の部（産肉性選抜群）は第二会場の菊池郡七城町、熊本県畜産流通センターで開催された。この部門の出品は同一種雄牛の産子四頭を一セットとする八セット、計三十二頭であったが、枝肉は、全般的にサシがよく入り、肉色もよく、脂肪ののりも適度で肉質の面でもかなりの改良がみられ、購買者の評価もよく、牛肉不足も手伝って好価格で取り引きされた。最高は下益城郡より出品された「球泉号」（一級四六三）の産子のセットでも松橋町高橋辰治氏が出品した「勇」号は枝肉単価二六〇〇円で取り引きされた。

表 1 未經産牛の測尺平均値

頭数	月齡 (月)	体高 (cm)	胸囲 (cm)	胸深 (cm)	尻長 (cm)	寛幅 (cm)	管囲 (cm)	体重 (kg)
54	22.1	127.0	196.2	67.0	51.2	47.4	17.4	543.8

「かつみ号」(特級申請中)

父、球泉(1級463)

母、はなひめ(1級39804)

月齡 24ヵ月、体高 128.2cm

胸囲 200cm、胸深 69cm

尻長 53cm、寛幅 50.5cm

管囲 17cm、体重 600kg

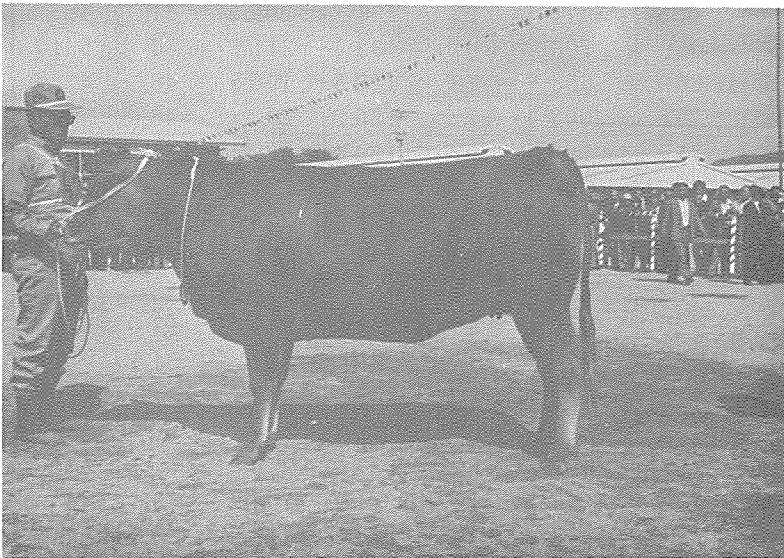


表 2 産肉性選抜群の生体各部測定値

出品 番号	父 名	生 後 日 齡(日)	終 了 時 体 重(kg)	1日当たり 増体量(kg)	体 高 (cm)	胸 囲 (cm)	寬 幅 (cm)	肥 育 度 指 数
1	球	663	696	1.00	133	217	52	523.3
		726	593	0.77	132.2	213	48	448.6
	泉	766	727	0.91	138	216.5	51	526.8
		784	741	0.90	138.4	218.5	55	535.4
2	球	737	697	0.90	137	219	53	508.5
		758	685	0.86	135.6	215.5	53	505.2
	泉	766	725	0.91	138.2	220	52	527.5
		798	670	0.80	135	217	53	496.5
3	第三	626	667	1.01	135.4	215	53	492.6
		656	585	0.84	130.4	205	49	448.6
	蘇殖	667	655	0.93	138	213	50.5	474.6
		670	652	0.93	138.6	215.5	51	470.4
4	球	634	644	0.97	135.2	204.5	52	476.3
		680	572	0.79	125	195	49	457.6
	泉	681	640	0.89	128	210	50	500.0
		728	690	0.90	132	213.5	53	522.7
5	第三	655	670	0.97	138	209.5	51	485.5
		669	708	1.01	132.4	211.5	54	534.7
	蘇殖	669	553	0.78	128.6	196.5	48	430.0
		792	602	0.72	136.2	200	48	442.0
6	光	719	762	1.02	136.4	229.5	57	558.7
		726	750	0.92	138	224	55	543.5
	花	735	812	1.09	135.4	225	56	599.7
		735	676	0.88	137	214	53	493.4
7	蘇	722	640	0.84	131.4	215	53	487.1
		730	657	0.86	139.6	210	53	470.6
	竜	756	675	0.85	137.6	212	54.5	490.6
		771	572	0.70	136	202	51	420.6
8	第二	733	637	0.83	138.6	205	51	459.6
		758	653	0.82	137.4	210	51.5	475.3
	球光	783	603	0.73	134.8	204.5	50	447.3
		789	618	0.74	140.4	215	54	440.2
平 均		721.3	663.3	0.88	135.2	212.2	52.0	490.4

表 3 産肉性選抜群の枝肉成績

		と殺前 体重(kg)	枝肉 重量(kg)	枝肉 歩留(%)	背脂肪の 厚さ(cm)	ロース芯 面積(cm ²)	脂肪 交雑	格等 付級
1	1	667	452.5	67.8	1.96	53.3	3.5	極上
	2	570	392.5	68.9	1.90	48.3	4.0	特選
	3	690	446.0	64.9	1.53	49.8	5.0	特選
	4	709	472.5	66.6	1.48	56.4	3.5	極上
2	1	670	455.5	68.0	2.43	54.9	3.3	極上
	2	656	450.0	68.6	2.46	56.5	3.0	極上
	3	695	464.0	66.8	2.20	50.5	1.8	上
	4	648	438.5	67.7	3.25	41.4	1.8	上
3	1	635	422.5	66.5	2.62	49.5	2.0	上
	2	555	360.5	65.0	1.72	40.0	1.0	中
	3	626	405.0	64.7	2.46	38.9	3.3	極上
	4	625	405.0	64.8	1.66	44.9	1.5	中
4	1	621	421.0	67.8	1.80	51.3	3.5	極上
	2	545	360.5	66.1	1.10	51.6	3.0	上
	3	610	400.5	65.7	2.10	47.9	3.0	極上
	4	665	441.5	66.4	3.00	45.1	1.5	中
5	1	637	415.0	65.1	1.67	50.0	1.8	上
	2	677	436.5	64.5	1.22	45.9	1.8	上
	3	535	346.0	64.7	1.38	39.6	1.0	中
	4	591	367.0	67.1	1.57	40.7	1.5	中
6	1	737	499.5	67.8	2.11	45.3	2.0	上
	2	725	478.0	65.9	3.34	47.9	3.0	極上
	3	773	520.0	67.3	3.28	48.9	1.5	中
	4	645	425.0	65.9	1.91	47.6	3.0	極上
7	1	608	400.5	65.9	3.13	48.7	2.0	上
	2	640	415.5	64.9	1.90	43.6	2.0	上
	3	650	416.5	64.1	1.52	44.2	2.3	上
	4	550	348.0	63.3	1.15	36.7	1.5	中
8	1	615	404.0	65.7	1.76	42.3	1.0	中
	2	630	419.5	66.6	2.36	43.0	2.3	上
	3	580	380.5	65.6	2.40	37.0	1.3	中
	4	599	410.0	68.4	1.88	47.2	2.8	上
		6368	420.9	66.22	2.070	46.53	2.36	

◎ あか牛子牛市況

(54年7月～12月)

県別	開 催 年 月 日	市場名	性別	頭 数	最高価格	最低価格	平均価格
秋 田 県	54. 8. 21	ニッ井	めす 去勢	54 49	515,000 ^円 389,000	217,000 ^円 253,000	324,204 ^円 330,878
	8. 22	北秋田	めす 去勢	53 56	529,000 480,000	233,000 202,000	350,849 349,018
	10. 19	能 代	めす 去勢	38 42	441,000 413,000	255,000 295,000	347,973 359,952
	10. 20	ニッ井	めす 去勢	36 30	490,000 455,000	286,000 319,000	364,777 378,933
	10. 21 22	阿 仁	めす おす 去勢	72 39 32	455,000 360,000 464,000	180,000 202,000 224,000	288,042 275,718 343,844
	10. 23	前 田	めす おす 去勢	35 23 26	475,000 376,000 407,000	165,000 224,000 216,000	275,457 277,261 346,885
	10. 25 26	北秋田	めす おす 去勢	81 6 66	817,000 365,000 485,000	165,000 190,000 272,000	351,815 293,500 379,530
	12. 12	北秋田	めす 去勢	41 49	520,000 429,000	246,000 258,000	342,902 350,836
	12. 13	能 代	めす 去勢	57 63	435,000 435,000	202,000 135,000	316,912 354,952
	長 崎 県	11. 6	対 馬	めす おす 去勢	93 33 75	532,000 390,000 459,000	204,000 205,000 203,000
熊 本 県	7. 4 7	南阿蘇	めす おす 去勢	374 97 363	810,000 400,000 425,000	205,000 217,000 264,000	340,516 323,701 344,655
	7. 17 19	阿 蘇	めす おす 去勢	551 132 459	1,018,000 508,000 467,000	193,000 192,000 247,000	358,174 364,893 380,032
	7. 25	南 関	めす おす	11 9	370,000 385,000	280,000 303,000	321,363 331,000

熊 本 県	7. 26	江 田	めす おす 去勢	29 7 29	390,000 ^円 357,000 392,000	291,000 ^円 288,000 272,000	335,068 ^円 322,285 343,482
	8. 9	小 国	めす おす 去勢	72 14 94	448,000 371,000 487,000	189,000 253,000 215,000	296,528 287,929 316,309
	8. 18 19	山 鹿	めす おす 去勢	115 3 146	536,000 700,000 483,000	256,000 313,000 255,000	356,078 466,333 358,952
	8. 21	大 津	めす おす 去勢	127 14 125	670,000 412,000 476,000	259,000 203,000 271,000	352,118 311,857 375,168
	8. 22 23	菊 池	めす おす 去勢	232 16 200	1,350,000 392,000 481,000	245,000 275,000 237,000	345,108 328,938 366,920
	8. 25 27	球 磨	めす おす 去勢	416 25 435	1,220,000 455,000 453,000	233,000 248,000 200,000	368,329 329,800 353,954
	9. 3	下益城	めす おす 去勢	79 19 93	600,000 465,000 440,000	251,000 234,000 207,000	350,076 335,421 352,871
	9. 4	山 西	めす おす 去勢	68 22 36	460,000 383,000 401,000	250,000 254,000 266,000	310,853 326,500 341,000
	9. 5 7	高 森	めす おす 去勢	332 62 366	900,000 384,000 450,000	230,000 250,000 250,000	351,048 312,823 349,579
	9. 10	上益城	めす おす 去勢	52 33 20	505,000 384,000 381,000	258,000 268,000 268,000	338,712 346,121 329,200
	9. 11 12	矢 部	めす おす 去勢	241 106 206	1,000,000 535,000 474,000	252,000 285,000 292,000	358,478 346,528 361,975
	9. 17 19	阿 蘇	めす おす 去勢	468 90 451	1,175,000 1,257,000 499,000	246,000 276,000 203,000	397,218 392,934 407,492
	10. 9	小 国	めす おす 去勢	81 6 76	550,000 331,000 509,000	222,000 130,000 232,000	326,000 270,000 354,000

熊	10. 16	南 関	め お 去	す す 勢	13 7 2	370,000 ^円 385,000 315,000	256,000 ^円 300,000 240,000	310,461 ^円 342,285 277,500	
	10. 17	玉 名	め お 去	す す 勢	28 5 16	450,000 382,000 423,000	291,000 361,000 300,000	359,893 367,800 367,000	
	10. 25 27	球 磨	め お 去	す す 勢	531 25 551	1,580,000 570,000 489,000	188,000 281,000 260,000	380,595 374,120 377,456	
	11. 12	大 津	め お 去	す す 勢	100 7 127	660,000 402,000 495,000	270,000 340,000 318,000	364,673 369,142 385,291	
	11. 13 14	菊 池	め お 去	す す 勢	215 8 231	705,000 420,000 493,000	256,000 355,000 256,000	370,581 384,875 395,333	
	11. 15 16	山 鹿	め お 去	す す 勢	156 1 137	1,201,000 275,000 503,000	230,000 275,000 300,000	384,673 275,000 391,153	
	11. 17 19	阿 蘇	め お 去	す す 勢	419 94 467	1,304,000 852,000 511,000	199,000 290,000 281,000	384,470 397,638 413,978	
	11. 24	上益城	め お 去	す す 勢	58 37 26	470,000 412,000 399,000	255,000 170,000 261,000	325,638 329,514 341,615	
	11. 25 26	矢 部	め お 去	す す 勢	308 94 247	1,000,000 701,000 500,000	236,000 260,000 242,000	355,788 364,436 376,080	
	11. 28	下益城	め お 去	す す 勢	118 14 100	800,000 418,000 488,000	282,000 257,000 311,000	383,254 355,000 389,290	
	本 県	12. 4	山 西	め お 去	す す 勢	58 24 58	520,000 410,000 436,000	217,000 260,000 265,000	341,500 345,000 360,724
		12. 5 7	高 森	め お 去	す す 勢	434 72 502	760,000 1,000,000 517,000	208,000 190,000 270,000	365,516 340,736 393,783
		12. 9	小 国	め お 去	す す 勢	67 9 84	549,000 330,000 496,000	211,000 254,000 233,000	300,000 289,000 335,000
		12. 13 15	球 磨	め お 去	す す 勢	524 18 516	1,500,000 810,000 487,000	218,000 306,000 218,000	390,116 394,333 374,953

謹賀新年

昭和五十五年元旦

社団法人 日本あか牛登録協会

会 長	堀 力	理 事	市川 昭吉
副会長	澤田 治男	理 事	佐藤 平安
常務理事	山部 龍三	理 事	佐藤 鉄山
常務理事	河津 幸喜	理 事	高田昭二郎
理 事	今村 来	理 事	国武 博
理 事	小林 友寿	理 事	上田 広喜
理 事	松野 政吉	理 事	帆保 義信
理 事	加藤 義孝	監 事	北里達之助
理 事	成田 広造	監 事	増本 健一
理 事	野口勝次郎	監 事	緒方 清臣
理 事	城 光宣		

刊行物実費頒布案内

○褐毛和種登録簿

第十八卷 各卷三、〇〇〇円

第十九卷

第二十卷

第二十一卷

第二十二卷

各卷四、〇〇〇円

○褐毛和種正常発育曲線

(雌・雄)各一部 五〇〇円

○機関誌「あか牛」

各号一部……………二〇〇円

○褐毛和種審査必携

(二組)……………一〇〇円

代金前納申し込みのこと

申込先 熊本市草葉町一の一

社団法人 日本あか牛登録協会

第 44 号

昭和 55 年 1 月 20 日 印刷
昭和 55 年 1 月 30 日 発行

編集責任者 松川 昭 義

印刷者 村 嶋 農志郎

発行所 日本あか牛登録協会

印刷所 印刷の村島企画

熊本市草葉町 1 番 21 号

振替 熊本 1510

TEL (0963) 55-4607

〒 860

熊本市小山町 4 3 2

TEL (80) 7 0 9 5

〒 861-22